

平成 29 年度第 1 回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進協議会会議録（要旨）

開催日時 平成 29 年 8 月 22 日（火） 午後 3 時～午後 5 時 20 分

開催場所 府中市役所北庁舎 3 階第 1 会議室

出席委員 11 名

都留会長、並木副会長、鬼山委員、加藤委員、小出委員、嵯峨委員

鈴木委員、中島委員、堀江委員、森委員、森田委員

欠席委員 1 名

川崎委員

出席説明員等

町田政策総務部長、矢ヶ崎政策課長、河邊政策課副主幹、大木主査、奥主任

傍聴者 3 名

議事日程

1 開会

2 確認事項

(1) 平成 28 年度第 3 回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会会議録（要旨）について

(2) 具体的な施策・重要業績評価指標（KPI）進捗状況の評価について（対象：平成 27 年度）

3 審議事項

(1) 具体的な施策・重要業績評価指標（KPI）進捗状況の評価について（対象：平成 28 年度）

4 その他

会 議 録（要旨）

会 長 ただいまから、平成29年度第1回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を始めます。本日の委員の出席状況を事務局から報告してください。

事務局 （出席状況の報告）

会 長 傍聴希望について、事務局から状況報告をお願いします。

事務局 本日は3名の傍聴希望者がおります。

会 長 それでは、傍聴者に入室してもらいたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、事務局は傍聴者に入場の案内をしてください。

（傍聴者入場・着席）

会 長 本日の配布資料について、事務局から説明をお願いします。

事務局 事前郵送及び本日本配布した資料について説明いたします。

（配布資料の確認・説明）

【確認事項】

会 長 「平成28年度第3回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会会議録（要旨）」について、「具体的な施策・重要業績評価指標（KPI）進捗状況の評価について（対象：平成27年度）」、事務局から説明をお願いします。

事務局 まず、資料2の会議録につきましては、昨年度の3月に開催した会議の内容をまとめたものになります。続きまして、資料3につきましては、施策「空き家などの活用」において前回の会議のなかで前任の委員からご意見があった点につきまして、会議終了後に会長と委員と事務局で調整の上、一部記載内容を修正したものでございます。資料2・3ともに、各委員には事前に郵送で送付させていただきまして、本日までに修正の連絡はありませんでした。このため、この場で最終確認・了承をいただければ、会議録として確定し、公

開の進めたいと考えております。

会 長 会議録及び平成27年度の進捗状況の評価について、お気付きの点などがありますか。特にないようであれば、この内容で公開することになりますが、よろしいでしょうか。

委員一同 （了承）

会 長 それでは、事務局は公開の進めを進めてください。

【審議事項】

会 長 「具体的な施策・重要業績評価指標（KPI）進捗状況の評価について（対象：平成28年度）」委員の皆様には事務局から事前に郵送されました資料4の評価票において、担当課が記載した内容を確認し、協議会の評価欄にコメントを記載していただいています。本日は、施策ごとに担当委員から評価や意見についてご発言いただき、その後他の委員からご意見などをいただくといった流れで進めていきたいと思っております。なお、先ほど事務局からの資料説明にあったとおり、資料4における協議会の評価欄には各委員の記載内容がそのまま印字されているため、「です・ます」等の文章表現は異なっています。それでは、施策名「市内企業の経営支援」から始めたいと思っております。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 については、昨年度と比べると融資実行件数及び中小企業退職金共済掛金の補助件数ともに減少しているため、積極的なPRが必要だと思っております。については、イベント事業の補助件数は昨年度と同じ実績で推移しているため、継続して事業を実施してほしい。については、東京都の施設の充実により、技術相談の件数は減少傾向にあるが、やはり地域で相談できる環境は大事だと思うので、継続して事業を実施してほしい。協議会評価は「B」が良いと思っております。

会 長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。私から1点、担当委員に確認したいことがあります。に関する評価として、「都の施設の充実により、技術的な相談件数は減少傾向のようだが」とありますが、担当課評価の「都の施設の充実等により、専門的な技術相談件数は減少傾向にあるものの」という内容を受けて記載されているのでしょうか。

担当委員 そのとおりです。

会 長 わかりました。実績がこれだけ減少していますが、評価は「B」で良いのでしょうか。

担当委員 事前に補足資料をいただこうと思いましたが時間がなかったため、この場で事務局に伺います。今回は実際の融資に関する資料をいただきましたが、今回も同様の資料はありますか。

事務局 本日、手元に資料がございませんので、次回までに担当課に確認し、お示しさせていただきます。

会 長 本当に東京都の施設が充実しているのかは確認する必要があると思いますが、担当委員のご意見のとおり、たとえ東京都の施設が充実したとしても、地域で相談できる環境は必要だと思しますので、気軽に相談できるような状況にあるのかも確認する必要があるかもしれません。

担当委員 東京都の施設の影響がないなかで実績がここまで落ちているのであれば評価は「C」としても良いかもしれませんが、東京都の施設に人が流れている可能性もあるため、協議会評価は「B」としています。

会 長 そのあたりは次回までに事務局に少し調べてもらいたいと思います。他に何かありますか。

委員一同 （異議なし）

委 員 K P I の評価に関して確認したいと思います。今の施策では、融資実行件数や 技術相談を行った件数が昨年度に比べてかなり減少していることから、評価は「B」なのか「C」なのかという話になってくるのだと思います。「C」とする判断基準はこの施策だけでは判断しかねるところもありますので、K P I については一旦それぞれの施策で評価を行い、最後にもう一度全ての施策の内容を見た上で、「C」とする整合性を図ることでいかがでしょうか。

会 長 前回の会議でも K P I の評価方法については議論があり、私の記憶では相対評価ではなく絶対評価として、指標の実績が下がれば評価も下げるという話が出ていたかと思えます。

委員 前回のKPIの評価方法に関する議論では、すぐに「C」とすることはしない、といった話も出ていました。絶対評価の場合においても、全体を評価した後に整合性を意識した上で評価することが、特に「C」と評価する場合には必要であると考えますので、全体を見渡してから検証しても良いのかなと思います。

会長 ありがとうございます。それでは、次に施策名「多様な人材の就労支援」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 いきいきワーク府中の就職率については、目標値が36.8%に対して実績26.4%、マイナス10.4ポイントという結果のため、協議会評価としては「C」が妥当であると判断しました。目標値の36.8%は平成26年度の現状値32.1%を踏まえて設定されたものだと思いますが、参考までに平成28年度の都内全ハローワークの就職率等について説明します。都内全ハローワークの就職率は28.4%、前年比プラス0.9ポイントという状況で、ハローワーク府中の就職率は26.0%、前年比マイナス1.8ポイントとなっています。また、いきいきワーク府中は55歳以上の方を対象とした施設となりますので、東京都全体の数値として、55歳以上の就職率は30.3%となっています。これらのことから、いきいきワーク府中の就職率26.4%、前年比マイナス0.8ポイントという数値は決して悪い実績とは思えなかったです。目標値がかなり高いという印象がありますので、評価票には「目標値達成に向けては改善、もしくは目標値の見直しも必要と思料する」と記載しました。次に、女性向け再就職支援の講座数については、目標どおり実施されており、講座を実施した成果はわからない部分もありますが、子育て中の方に対してはハローワークでもマザーズコーナーを設けるなど、色々と就職支援を進めていますが、出産後の育児や保育所の待機児童問題が大きな壁となっている現実があるものと考えます。再就職支援については、これらの問題を含めた総合的支援が必要であると記載しました。また、子育て中の方については、保育所にお子さんを預けられたとしても、送迎や急病で預けられないなど、就労条件に制限があるものと分析していますので、各企業に現状等を伝えて求職ニーズに合わせて労働条件を整理するような形で府中市の就労支援ができれば更に効果的であると考え、評価内容を整理しています。よって、協議会評価は「B」が良いと思います。

会長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等は

ありますか。私から1点、担当委員に確認したいことがあります。労働市場の需給関係で考えると、完全失業率及び有効求人倍率においても良い状況だと言える場合、ハローワークの就職率は低下することが一般的な見解であると以前の会議において前任の委員が発言されていたのですが、なぜそうなるのでしょうか。

担当委員 平成29年6月の東京都の状況では、有効求人数と有効求職者数の割り算である有効求人倍率は2.08倍、前年比0.53ポイント上昇となっており、求職者は年々減って求人数は増えている状況のため、単純に考えると就職は容易になるはずですが、しかし、求人の内訳を見ますと、人手が不足している分野である介護、警備、建設関係が多くなっており、事務職に関する有効求人倍率は約0.5倍程度となっています。よって、求職者の希望職種と求人内容ではミスマッチが起きている状況になり、統計上で有効求人倍率の数値と同様には、簡単に就職率が上昇しない状況になっています。

会長 就職率は分母が求職者数、分子が就職者数という理解でよろしいでしょうか。

担当委員 そのとおりで、就職率は仕事を探している人数に対して就職が決まった人数となります。単純に考えれば、当然求人のほうが圧倒的に多くなっていますから、就職率も上昇することが妥当だと思いますが、先ほど話したようなミスマッチという背景があるため、思ったように就職率は上がりません。

会長 よくわかりました。その他に何かご意見等がありますか。

委員 担当課評価において、「再就職支援講座を5講座実施し、離職した女性の再就職を支援した」とありますが、講座を実施するだけでなく、そこから実際に再就職につながった事例など、講座の効果が出ていればその点も記載した方が良いと思いますが、いかがでしょうか。

会長 その点については、指標にない記載されない部分になりますが、事務局から説明等がありますか。

事務局 再就職支援講座は女性センターで実施しているものでございますが、市単独で行っているものではなく、ハローワークなどと連携して実施しておりますので、受講者のその後の状況についてはハローワーク等にもご相談させて

いただきながら、次回までにお示しできればと考えております。

会長 K P Iの目標値は途中で変更することが適切かどうかは議論の分かれるところだと思いますが、 の就職率は担当委員から設定の妥当性についての意見も出ていますので、その点も含めて事務局は担当課と調整してもらいたいと思います。それでは、次に施策名「起業・創業の支援」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

副会長 セミナー参加人数については、セミナーを3回開催して42名の参加で、前年は5回開催して47名の参加、創業塾については、2コースで30名の参加で、前年は3コースで26名の参加で、**体験型創業塾については、1回8名の参加**でしたので、昨年比では35人、目標値には10人足りないという結果は残念でしたが、開催1回当たりの参加者数は増えている点は評価したいと思います。なお、平成28年度については、受講者から体験出店の希望が多く出ていたため、けやき並木で開催しているマルシェにおいて出店ブースを設けて疑似体験を実施しました。これは創業に向けた実務を体験する機会として参加者から非常に参考になったという意見が出たため、平成29年度にも継続する方向で進めています。平成28年度はこの疑似体験を実施したことでセミナーの回数は少なくなっていますが、29年度は28年度に実施しなかったフォローアップセミナー（27年度は2コース42名の受講者が参加）を再開する予定であるため、目標の達成を期待したいと思います。コミュニティビジネスについては、前年度実績の半分以下であった点は非常に残念ですが、平成29年7月に完成したル・シーニュの5階に専用スペースが確保されたこと、また、その場所は指定管理者業務で運営されることが予定されており、目標達成に向けた環境整備が完了し、今後は成果が出るものと期待しています。よって、協議会評価は「B」が良いと思います。

会長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。起業・創業の推進による産業構造の多様化は、府中市の産業の活性化という点において重要な問題と思っており、府中市在住の方だけではなく、他の場所から府中市に移ってきてビジネスを起こし、できれば市内で雇用を生み出すことが理想的な姿だと思います。

副会長 今の発言に関連して、評価表5ページの施策概要には大きく2点が記載されています。前半部分については、市外からも人を集めて市内に出店してもらおう、その点は商工会議所が担っており、K P Iの が該当します。後半

部分の東京農工大学をはじめとする教育機関や市内団体等と連携し、コミュニティビジネスの立ち上げとインキュベーションオフィスの活用については、協働推進課が所管している「プラッツ」にインキュベーションオフィスがあり、NPO団体の場所が確保されましたので、そこを充実させて、東京農工大学をはじめ、東京外国語大学や、市内ある農業高校や工業高校との連携が進んでいくことも期待して評価できると思います。この「プラッツ」の開設準備等に時間が掛かり、指標の実績が少なくなっていることも推測されます。

委員 今の発言について、「プラッツ」では多摩信用金庫が実際に指定管理者と連携して、コミュニティビジネスに特化したものではありませんが、創業支援関係の取組を秋頃から始められるよう現在調整しているところです。会長の発言にもありましたが、どの自治体でも市内だけを対象にすることはせず、多摩地域全般で気運を高めることを意識して、施設に来場した方を対象とすれば近隣の方々の来場が相当数見込めると考えています。多摩信用金庫がハブとなって広域的に色々な方が府中を知ってもらう機会が作れると考えていますので、ご期待いただきたいと思います。

会長 外から入って来た人が市内で起業することが、府中の将来にとって非常に重要だと思しますので、ぜひ取り組んでもらいたいと思います。それでは、次に施策名「市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進」に移りませぬ。担当委員が欠席のため、事務局から評価票の説明をお願いします。

事務局 （施策「市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進」の評価票における「進捗状況評価（協議会）」部分について説明

会長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等ありますか。私から1点、総合計画審議会のなかで、府中駅周辺を全面的に無料Wi-Fi化する必要があるという意見が出ていました。その整備が市外からの来訪者の増加につながるデータとして出てくるかはわかりませんが、私もWi-Fiの整備は必要だと思しますので、紹介しておきます。

委員 観光協会では、ホームページを英語、中国語、ハングル語に対応するなど、外国人に対して情報提供できるように改修し、今年度中には稼働する予定です。その他にも、今年度はくらやみ祭の神輿ルートが変更され、来訪者は昨年度の75万人から80万人に増加しました。また、ちはやふるについても、昨年度はイベントを開催しましたが、今年度は漫画や映画に関連するアプ

りを作り、現地に行くとポイントが貯まるような仕組みを構築しました。府中駅の乗降人員を増やす要因は観光だけではないと思いますが、市外からの来客を図るための取組を始めている状況です。

会 長 それでは、次に施策名「地域の連携によるにぎわいの創出」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 平成29年度の完成に向けて府中駅南口第一地区市街地再開発事業も順調に進み、中心市街地活性化計画は国の認定を受け、一般社団法人まちづくり府中が設立されました。中心市街地における具体的な取組は平成29年度から始まるため、にぎわい創出の各種事業の進展を期待したいと思います。東京オリンピック・パラリンピック競技大会等関連事業推進会議及びラグビーのまち府中推進委員会による各種取組にも期待しています。KPIの実績が昨年度より減少していますが、担当課に確認したところ、再開発事業による工事が本格的に開始されたことが歩行者交通量にも影響したのではないかと、という回答であったため、やむを得ないものと考えます。よって、今後の取組に期待することとし、協議会評価は「B」が良いと思います。なお、協議会評価欄の意見部分については、次回までに文章内容を少し整理させていただきたいと思えます。

会 長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。

委 員 再開発に関する工事の影響なども鑑みて、協議会評価は「B」で適正かと思いますが、KPIは数字のみで判断することになるとすれば、前年度と比較して約3,800人の減少になっていることの評価は「C」が妥当であると思えます。KPI評価と協議会評価が違って良いと思えますが、いかがでしょうか。

会 長 本日、1つ目の施策の審議において、絶対評価でも総合的に判断する必要がある、という意見が出ていました。

委 員 この施策では実績がかなり減少しているため、どこまで数値だけではない要因等を考慮するのか、または考慮しないのか、「B」か「C」とする判断基準について共通認識を持ちたいと思えます。

委員 前提として確認したいのですが、私達は協議会として評価する、評価票における「進捗状況評価（協議会）」の欄を作成することが責務だと思いますが、K P Iの評価部分を協議会の判断で変更することは可能なのでしょうか。

会長 K P I評価について疑義があれば、その点を担当課（事務局）に伝え、変更を促すことは可能です。

委員 わかりました。

会長 前回の会議では、背景や要因といった様々な理由があるにせよ、K P Iは数値で判断するものであり、減少した場合は評価も相応に下げるべきであるという意見だったと理解していますが、いかがでしょうか。

委員 前回の会議では、現段階では「C」よりも「B」になるといった意見が出ていたと思います。この施策におけるK P Iの実績は約3,800人減少しているため、「B」寄りの「C」だと思います。ただ、その要因等が明確であれば、協議会として「B」とする判断も有り得るのではないのでしょうか。

会長 私の見解として、複数の指標がある施策について、ある指標が「A」、もう一方が「B」となっている場合、協議会評価を「A」とするか「B」とするかは総合的な判断の問題であると思いますが、K P Iが数値目標である以上、一定数値を下回る場合は低い評価になることが基本的な評価方法だと思います。

委員 では、この施策におけるK P Iの評価は「C」とすべきですね。この絶対評価を徹底すると実績が下がったK P Iの評価はほとんど「C」になるため、明らかに減少幅が大きいものは「C」、それ以外に微減か想定内の減少幅であれば「B」という評価という意見も前回の会議で出ていたと思います。

会長 本日1つ目の施策の審議において、「C」の判断は全体を見てから検証するといった意見も出ていました。この施策のK P Iは典型的な例になりませんが、約19,000人から約15,000人に実績が減少している理由は、恐らく再開発に係る大規模工事の影響と考えて間違いないと思います。この場合にどう評価するのか、ここで意思統一をしましょう。皆さんはどうお考えになりますか。

委員 施策毎にK P Iに対する評価が変わってはいけないと思いますし、

委員が代わってしまう可能性などもあることから、統一的な基準、ルールを作るべきだと思います。絶対評価なのか相対評価なのかは議論が分かれるかもしれませんが、私はこの施策については減り方も考えると、K P Iの評価は「C」で良いと思います。このため、協議会評価も「C」としつつ、その背景や今後期待することなどを評価欄に記載し、フォローすることによろしいかと考えます。よって、K P Iの評価は数値のみで判断することが望ましいと思います。

担当委員 このK P Iの実績を見れば、誰もが「C」という評価が妥当だと考えると思います。ただ、その背景には止むを得ない事業があることや、各種の取組が動いていることなどを評価し、協議会評価は「B」としました。

会 長 協議会評価については、背景や事情なども考慮した総合評価とし、K P Iの評価については数値指標であることから、実績が下がれば評価も下げることが自然な方法だと思います。

委 員 K P Iの評価は「C」が妥当だと思いますが、大規模工事という背景があり、その工事の完了から期待する点なども含めて、協議会評価は「B」で良いと思います。

委 員 K P Iの評価をそのまま協議会評価にすることもありますが、数値で見えない部分や期待値を含めて評価するのが協議会の役割だと思います。

会 長 今のご意見は、実績の数値が減少している場合に、その数値を回復しようとする努力が見えるかといった点を本協議会ではどう評価するのか、そのように理解しました。

担当委員 そういった点を協議会評価欄に必ず記載するというのでしょうか。

会 長 その点が記載できない状況であれば評価は「C」になると思います。目標が達成できない言い訳はいくらでも書けますが、本協議会ではその内容をしっかりと精査し、目標に向けた努力が認められる場合にはきちんと評価をするといった考え方で統一したいと思います。この施策の場合では、K P Iの評価は「C」となり、協議会評価については先ほど担当委員から修正したい旨の発言がありましたが、「B」とする場合には、そう判断できる理由を明確に記載

することとなりますが、このフォーマットの捉え方について事務局は何か意見などありますか。

事務局 K P Iの評価として、「B」は「やや遅れているが、概ね順調に進捗している」となっておりまして、昨年度に本協議会において評価をしていただいた平成27年度実績につきましては、5か年計画における1年目でありましたので、現状値から目標値に向けて数値が下がっていても、「やや遅れている」という範囲内として捉えていただいたものと思います。今回は2年目の実績になりますので、前年度に比べて減少している値については、「やや遅れている」という範囲内なのか、また、「概ね順調に進捗している」と言えるのか、その判断基準が複雑になっているものと認識しております。そのなかで、担当課がK P Iの評価をする際には、数値が下がっていた場合でも、目標達成に向けた各取組は進めているという意識があることから、「概ね順調に進捗している」と判断し、「B」としているものと推測されます。ただし、本日の委員の皆様のご審議内容を踏まえると、目標に向けて数値が減っているK P Iの評価は「C」となりますので、その基準に沿って評価を精査し、次回の会議でお示しさせていただきたいと思います。

会長 今までの議論をまとめると、K P Iの評価は数値のみで評価するものとし、協議会評価は数値の背後にある要因をはじめ、それ以上に重要となる取組の充実度や、次年度にK P Iを上昇させるような内容が確認できるかを見極めつつ、総合的に判断していくことを基本的なやり方として統一していきたいと思います。なお、K P Iの評価として「C」は厳しく見えるかもしれませんが、単純に数値のみで判断し、「遅れが生じている」という評価になるだけで、事務局は担当課にも説明してもらい、統一した考え方で精査をお願いします。その他について、何かご意見等がありますか。

会長 それでは、次に施策名「歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 K P Iの評価はともに目標値を達成していることから「A」としています。担当課評価では、取組による効果が表れている点が評価でき、K P Iの項目以外にも取組が行われていることが確認できるため、このまま取り組んでいって欲しいと思います。今後も、より多くの市民が府中の歴史や文化、スポーツに親しめるよう、取組の継続と更なる充実に努めて欲しいということも含めて、協議会評価は「A」が良いと思います。

会 長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。 の郷土の森博物館及び美術館の入場者数の内訳について、美術館の入場者数が増えていると思っているのですが、いかがでしょうか。

事務局 本日、手元に資料がございませんので、次回までに担当課に確認し、お示しさせていただきます。

会 長 それでは、次に施策名「安心して妊娠・出産できるサポート体制の充実」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 については、サイトのリニューアルおよびアプリの配信開始の構築を行ったことは評価できますが、外部の子育て関連情報へのアクセスが少なく、さらに市内の子育て情報について関連団体などと情報共有を図ることが必要だと思います。これにより、市民が使いやすくなり、アクセス数の増加も見込まれます。実際にアクセス数の実績は減っており、私もサイトを使ってみました。市の情報は非常にわかりやすいとは思いますが、その他の団体が子育ての色々な取組を行っているのが見えないなど、自由に使えていないと感じます。子育て中のお母さん方に話を聞くと、もっと情報が欲しいと言っていますので、もっとわかりやすく、見やすい情報の提供に努めていただき、アクセス数の向上につなげてもらいたいです。また、 については、産前産後サポート事業の周知に自分自身が関わっていた部分もあり、実績は若干減っていますが、実際はサポート事業があっても利用しないお母さん方が多いことと、知らない方が多いことを実感しています。以前よりも事業周知のチラシ等が配布されていますが、実際にチラシを見た方が、事業を利用するところまで説明がされていないということもあり、更なる取組を行うとともに、事業所の受入体制等の整備も進めて欲しいと思います。よって、協議会評価は「B」が良いと思います。

会 長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。私は情報発信の方法として、ホームページは古いと感じており、ツイッターなどの発信型にしないと、自分が切迫するような状況でない限りホームページ見ることはありません。担当課もその点は意識しており、協議会評価もそのあたりを踏まえた内容になっていると思います。その他に意見等がないようなので、次に施策名「安心して子育てができる環境の整備」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 これまでの議論を踏まえると、この施策の協議会評価は「B」になるかと思いますが、私は色々と考えた結果として「A」にしていますので、その理由等を説明します。 については、担当課評価に新生児訪問実施率が減っている理由として、府中市では里帰り出産が多いことは前年度にも記載されていましたが、「里帰り先の自治体に訪問を依頼し、対応した」とありますので、このような対応も考慮すると、数値としては落ちてしまったのかなと推測できます。また、新生児訪問を利用していない家庭に関しては、3～4か月児健診等で状況確認を実施しており、その受診率は97.5%であるため、KPIの実績が下がっている点は深刻な問題につながらないものと判断しました。 については、特定教育・保育施設の数目標値を上回っています。 については、安心して出産し、子育てできると感じている市民の割合は0.7ポイント減少していますが、概ね現状維持となっています。これらのKPIのなかで、特に待機児童問題の解消に向けた努力として、特定教育・保育施設の数増加していますので、待機児童問題の解消の取組がなされていると判断しました。それ以外にも、親同士の交流や子育て相談といった親の孤立を防ぐ取組も継続して実施されていることがわかりますので、総合的に見れば着実に努力されていると考えられます。ただ、新生児訪問実施率については、里帰り先の自治体で実施されているという理由で実績が下がっていることを考えますと、今後、目標達成が難しくなってくると思います。里帰り先の自治体での実施状況を把握する方法も考えられますが、新たな業務が発生して手間が掛かるとは思いますし、その一方でKPIの数値だけで評価を判断することも難しいケースだと考えます。

会長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。私から一点、新生児訪問実施率が1年で約6ポイントも下がるほど里帰り出産が増えている事実はあるのでしょうか。そのような統計資料等は見たことはありません。

委員 統計的にも出ていると思いますが、母親が一人で育てるのが大変なため、1～2か月は親元に戻って出産するケースが実際に増えていると思います。新生児訪問実施率はこの要因で減っていますが、3～4か月健診で新生児訪問をしなかった人達のフォローができていることは子育て支援課にも確認しています。実際に里帰り出産した人は、自分の親がいると安心できることや、自分の言いたいことが言えることなどの話が出ています。このように、実家に帰れる人は安心して出産できるというのはあると思います。

会 長 私の世代では里帰り出産が100%と言える状況でした。その後、社会情勢等が変化し、両親ともに働くような時代になり、そのような状況ではないと思っていたため、またここで里帰り出産が増えていることに少し驚きました。

委 員 共働きの両親は増えていると思いますし、仮に祖父や祖母がまだ働いている状況でも、出産するお母さんは実家にいればそれだけで安心だと思います。

会 長 よくわかりました。先ほど、担当委員が迷った上で、評価は「A」とした経緯について説明がありましたが、その点はいかがでしょう。

担当委員 KPIの実績評価に係る本日の議論を踏まえると、協議会評価は「B」にした方が良いと思います。ただし、懸念される点として、新生児訪問実施率については97.0%が最終目標となっていますので、達成することは困難だと思います。しかし、里帰り出産した方の実態が把握できれば、その点を加味して協議会評価は最終的に「A」という判断にすることも可能だと考えますが、新生児訪問実施率の数値の扱いは今後検討しなければならないと思います。

会 長 担当委員から、協議会評価は「B」に変更する意見が出ましたが、いかがでしょう。

委員一同 （異議なし）

会 長 それでは、協議会評価は「B」とします。次に施策名「防災・防犯体制の強化」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 については、水害ハザードマップの作成などのツールにより、市民への情報提供ができている点は評価できると思います。昨年4月に熊本で震災がありましたので、市民の防災意識が上がり、KPIの数値も上がると思っていましたが、実績がそこまで出ていないことを考えると、さらに市からアクションがあっても良かったのではないかと思う部分もあります。ただし、地域単位の防災訓練などを実施している点は評価できますので、自主的に防災に取り組むような施策をさらに検討していただければと思います。 について

は、若年層への参加を促すということで、寸劇などの色々な活動が評価できると思います。また、地域安全リーダー講習会への女性参加者がどれくらい増えたかという点については、後ほど事務局から教えていただきたいと思います。協議会評価は「A」で良いと思います。

会長 担当委員から質問があった点について、事務局から説明をお願いします。

事務局 事前に委員から質問がありました点について、順次お答えいたします。平成28年度における寸劇の実施回数と実施場所については、10月25日に中央文化センターのひばりホールにおきまして、入替制により2回の実施となっております。続きまして、地域安全リーダー講習会の若年層（40代以下）の方及び女性の方の参加割合については、若年層は22人中2人で9%、女性は22人中4人で18%となっております。

会長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。私から一点、今、事務局が説明した数値は評価票のどこかに記載してもらいたいと思います。それでは、次に施策名「公共施設・インフラの計画的な管理及び運営」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 KPIの数値は ともにほとんど前年度から変化はなく、目標値に対しても上回っている実績になっています。取組内容に関しては、計画や方針を策定するに当たっては現状の把握や時代に即した取組などの検討をした上で選定されていると思いますので、そういう部分は評価できると感じています。取組は順調に進んでいるということで、協議会評価は「A」で良いと思います。また、担当課の平成29年度における取組等として、「包括施設管理委託導入の検討を進める」と記載があった点に着目しました。この背景には恐らく、管理費等のコストの部分で民間と連携した取組を進めていくということで記載されていると思いますが、実際に委託先を選定する際には、安全面等で適切な管理ができる点を重点的に求めるのではないかと思います。その点が間違っているというわけではなく、例として「まちづくり府中」を挙げておりますが、管理だけに着目せずに地域のマネジメントも担える委託先を設定できるようなプロポーザルを実施していただくと、より府中は住みよい街になると思います。例えば八王子市における公園管理では、通常ですと地元の造園業者が委託を受けて適正な樹木の伐採等を行うところ、地元のNPOが管理している事例がありまして、そのNPOは公園経営という考え方を持って様々なイベントを行い、

伐採に関しては地域のシニアを活用するなど、地域の活力を使ったまちづくりを行っています。こういった視点も持ってもらい、事業者との連携や委託管理の方法を検討してもらいたいと考え、協議会評価欄にその他として記載しました。

会 長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。私は担当委員がその他として記載した意見である、管理等を生業としている既存の業者がいて、そこに新たにマネジメントもできる業者が参戦してきて、加えて市民が主体となって立ち上がったNPOも関係してくるといった構図は非常に面白いと思います。

担当委員 この公共施設やインフラの管理の施策については、今後、市の行政経営において非常に予算を割かなければいけない部分であり、一方では民間に委託するなかでコストの削減も求められていく分野になります。市が地域活性化事業に取り組むなかで、その事業だけで生業を維持していくことは大変なことであるため、経営的に安定するようにお金が流れる仕組みを市が作ることを意識してもらい、専門業者だけでなくマネジメントを担える団体とも連携していくべきだと思います。

会 長 それでは、次に施策名「地域交流・活動の促進」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 については、KPIの評価は「A」で問題ありませんが、については「B」としていましたが、本日の議論を踏まえると「C」が適当だと思います。進捗状況評価としては、は「雨天時を想定したスポーツ行事の会場変更」や「学校行事に配慮した日程設定」など、参加者を確保するための工夫や配慮がなされ、前年度比で参加者数が増加している点や、現状値からの推移でも年々増加傾向にある点も評価できると思います。ただし、今後に関しては、事業・行事の持続性の観点から、文化センター圏域ごとに実施・運営上の課題を感じていると思いますので、その課題を整理して対応策を検討していただき、文化センター間で共有してもらいたいと感じました。はKPIの実績が減っていますが、担当課の取組内容として大学連携は「増やすことができた」と記載されていることから、企業等との連携に減少の要因があると考えられますので、15件減ったところの要因に関する分析に努めてもらいたいと思います。

会 長 まず、担当委員の意見のとおり、のKPIの評価については現在「B」となっていますが、「C」に変更することによろしいでしょうか。

委員一同（異議なし）

会長 それでは、 の評価は「C」とします。総合計画審議会のなかでも大学との連携が充実しているという話は出ていたと記憶していますので、企業等との連携が減っているということになるのでしょうか。協働のパートナーは大学以外に企業やNPO等があると思いますので、事務局は次回までにそのあたりの事実確認をお願いします。

委員 この協働事業に関するKPIの実績はかなり減っていますので、次の会議ではより具体的な議論ができるよう、事業名や連携企業名がわかるような資料を提示いただきたいと思います。

会長 事務局は次回の会議において資料の提示をお願いします。それでは、次に施策名「空き家などの活用」に移ります。担当委員から評価票の説明をお願いします。

担当委員 空家等対策協議会の審議が開始され、計画や空き家利活用に関する審議がなされていることは評価できます。空き家や空き店舗の活用には、法的整備も必要だと思いますが、市民協働による地域の拠点として、空き家を使いやすく、そして様々な市民のアイデアを取り入れて活用できるようにしてほしいと思います。他市では、空き家の利活用が進められていると聞く機会もありますので、府中市でも進めてもらいたいです。空き家については若年世代や子育て世帯における利用や、大学等との協働による利用なども考えられるため、今後の取組に期待したいと思います。

会長 担当委員の評価に対して、また、その他についても何かご意見等がありますか。

委員 空き家などの活用という施策に対して、担当課の平成29年度を取組では、「空家等対策の推進に関する特別措置法第3条に定めるとおり、空き家対策の原則は所有者等による自己管理にあるため」という記載になっており、さらに平成28年度を取組内容と評価では、空家等対策協議会についての記載がありますが、その内容は管理に関する内容のみで、今後活用していくような記載はありません。空き家に関する勉強会を開催したところ、青梅市や日野市は空き家を活用して賑わいを創出できるよう、率先して取り組んでいる印象を

受けました。府中市でも活用について推進するために、担当課評価の記載内容についてももう一度検討してもらった方が良いと思います。

会 長 今の意見のとおり、担当課評価欄には「協議会を設置しました」、「会議が始まりました」という記載だけで踏み込んだ内容にはなっていないため、事務局は担当課と調整してください。私は地価が高い府中市に空き家はないと思っていましたが、実際に空き家が増えていると聞いて驚きました。市は対策を講じていく必要があると思います。

会 長 以上で全ての施策について審議が終わりました。本日の審議内容に基づき、事務局は評価票の修正等をお願いします。次回の会議では、その評価票の最終確認作業を行い、本協議会としての評価や意見内容を確定させていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【その他】

会 長 最後に「その他」として、委員の皆様から何かありますでしょうか。事務局からは何かありますか。

事務局 事務局から2点ご連絡させていただきます。1点目は次回会議の日程につきまして、10月頃を予定しております。詳細につきましては、今後会長及び副会長をはじめとして、委員の皆様と調整させていただきたいと思えます。2点目は次回の議題につきまして、先ほど会長からお話があったとおり平成28年度の評価票を確定していただくことに加え、昨年度の会議のなかでも一度説明させていただきましたが、国の交付金である地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金の交付対象事業である「百人一首かるたコンテンツを利用した観光誘客推進事業」、「ラグビーのまち府中推進事業」、「中心市街地活性化事業」、「市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業」の4事業についても評価をお願いしたいと考えております。詳細につきましては、後日改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

会 長 以上をもちまして、平成29年度第1回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を閉会いたします。委員の皆様、お疲れ様でした。